

株式会社 WOWOW プラス 番組審議会議事録 (2018 年 7 月 19 日開催分)

開催年月日： 2018 年 7 月 19 日(木) 11:00~13:00

開催場所： WOWOW プラス会議室

委員の出席： 委員の総数 7 名

出席委員数 6 名

出席者

[審議委員] 音好宏、草場滋、高寺成紀、富澤一誠、村上典吏子、
湯浅正敏

(以上 50 音順、敬称略)

[放送事業者] 牧野力、宮澤辰之、松田健吾、井田勇、内藤友基
池田綾香、渋谷明子(記)

議題： (1) 2018 年 4 月~6 月のシネフィル WOWOW に対する視聴者からの問い
合わせや指摘・意見について
(2) シネフィル WOWOW の番組内容、編成内容に関する審議

報告事項： 2018 年 4 月~6 月におけるシネフィル WOWOW に対する視聴者からの問い
合わせや指摘・意見について、当社編成制作局長より、その件数や代表的
な内容といった概要説明を行った。

審議事項： [審議番組] 世界の巨匠：ケン・ローチ

<番組概要>

名画専門チャンネル、シネフィル WOWOW の看板企画として、2017 年 10 月
より放送開始したレギュラー枠「世界の巨匠」。映画史に名を残す監督を
毎月一人取り上げ、監督作を 3~4 作品放送。また、作品の本編前に、取
り上げた監督の演出技法や特徴にスポットライトを当てた解説を放送す
る。

2018 年 4 月はイギリスの巨匠“ケン・ローチ監督”を取り上げ、『ケス』、
『レイニング・ストーンズ』、『レディバード・レディバード』の 3 作品を
放送。

審議内容： ■審議員意見

・若い人は昔の作品にふれることがないので、こういった企画をもっと
行わないといけない。

・監督のプロフィールや背景をもう少し知りたいと思った。どうして 60
年代に『ケス』を撮ったのか、なぜ 90 年代以降に監督が脚光を浴び
たのかなど、深く掘り下げて欲しかった。

・コマーシャルイズムだけでなく、反体制側から映画を撮る作家がいると
いうことは、はげみになる。『ケス』のように、社会性を訴える作風
があることを若い世代に広めてもらいたい。

・本企画の意図、映画業界の遷移や映画通の思いを代弁する人を立てて、
ガイドしてもらおうと見やすいと思う。

・作品の紹介の仕方が、「社会の弱者に目を向ける」など抽象度の高い
言葉になっていて判り難かった。「子供の養育権争い」など、作品の
なかで示される問題を具体的な言葉で説明した方が伝わりやすいの
ではないか。

・この監督、この作品の「ここがすごいんだ」という導入部があれば、
世界の巨匠、名画を見る動機へとつながるのではないかと思う。

・ケン・ローチ自身の背景、例えば解説に出てきた BBC 時代にどのよう
な作品を作っていたのか等についても知りたい。イギリスの階級社
会や年代を説明してあげると、作品背景も判って良いと思う。

■審議員長総評

・「世界の巨匠」とは「誰」なのか。取り上げる際の条件をはっきりさ
せて、視聴者に納得感を持たせると良い。

連絡事項： 次回番組審議会は、2018 年 10 月 5 日金曜日開催予定。

以上